

防災基礎講座向けルーブリックの作成と評価

岐阜大学 正会員 小山 真紀
 岐阜大学院 学生会員 ○小関 貴徳
 岐阜大学 正会員 村岡 治道
 岐阜大学 正会員 能島 暢呂
 岐阜大学 正会員 高木 朗義

1. 研究の背景と目的

わが国では過去に阪神・淡路大地震、新潟県中越地震、東日本大震災等、数多くの大規模災害が発生している。これらの被災経験から 2014 年の防災白書において自助・共助による「ソフトパワー」の重要性が指摘されるなど、地域防災力の重要性が認知されてきている。これを受け、全国の大学や自治体等で地域防災人材の育成がなされている。しかしながら、それらのプログラムで「地域防災人材」の定義は共有されていない。さらに、各プログラムにおける、育成したい人材のレベルはどの程度かということの具体的な明記と、修了者がそのレベルに到達しているかどうかという評価がなされていないケースも多い。育成目標とされているレベルと実際に育成された人材のレベルで乖離が生じている場合には、防災活動の現場でトラブルとなるケースもある。本研究では、清流の国ぎふ防災・減災センター(以下センターと称する)が開講する地域防災人材育成プログラムである「防災リーダー育成講座(基礎編)」を対象として、ルーブリックの設定およびその評価について検討を行う。

2. 講座概要

「防災リーダー育成講座(基礎編)」(以下基礎編と称する)は1コマ60分の講義を1日に6コマ行う、全4日間の講座である。講座は座学およびグループワークで構成されている。2018年度は8月の水曜日、金曜日に実施された平日コースと、同年11月から12月の毎週日曜日に実施された日曜コースがあり、受講者はどちらかを選択して受講する。

受講者は単元毎に、講義内容の理解度やグループワークへの取り組み方等の達成度自己評価(5段階)および理解度確認クイズ(各講義それぞれ4択3問)、今後連携できそうな仲間の人数を問う内容の「科目別レポート」を、また講座終了時には受講者属性とこれまでに参加した防災関係の研修・講座歴等に関する「全体レポート」を提出する。評価は、これらのレポートによって行う。

小山ら¹⁾は、人材育成プログラムを評価する上でルーブリックを用いた評価方法を提案した。本研究では、提案されたメタルーブリックを基に防災リーダー育成講座(基礎編)のルーブリック(表1)を作成し、その妥当性の検討を行う。

表1 2018年度基礎編ルーブリック

評価観点		評価尺度			
		低い	普通(修了時に求められるレベル)	高い	
スキル	知識	①:講義内容を理解できた	あまり理解できなかった 多少は理解できなかった	半分くらい理解できた	かなり、ほとんど理解できた
		④:作業内容を理解できた	あまり理解できなかった 多少は理解できなかった	半分くらい理解できた	かなり、ほとんど理解できた
	主体性	理解度確認クイズ	0問,1問正解	2問正解	3問正解
		⑤:自分から発言できた	あまり発言できなかった 多少は発言できた	半分くらいは発言できた	かなり、ほとんど発言できた
人材育成	⑥:自分から行動できた	あまり行動できなかった 多少は行動できた	半分くらいは行動できた	かなり、ほとんど行動できた	
	②:講義内容を人に伝えることができる	あまりできない 多少はできる	半分くらいはできる	かなり、ほとんどできる	
ネットワーク	⑦:参加者同士で協力して作業を行うことができた	あまりできなかった 多少はできた	半分くらいはできた	かなり、ほとんどできた	
	今後連携できそうな仲間の人数	0人	1人,2人,3人	4人,5人以上	
企画・立案・実践	③:地域,グループ,仲間などでやってもらいたいと思う	あまり思わない 多少は思う	半分くらいは思う	かなり、ほとんど思う	

キーワード 防災教育 防災教育プログラム 防災人材育成 ルーブリック

連絡先 〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学工学部社会基盤工学科 TEL 058-293-2416

3. 受講者属性分析

2018年度の受講者登録状況および属性別受講者数を表2, 表3に示す。2018年度は「行政」, 「学校教職員」, 「民間企業・団体」, 「地域・自治会など」, 「学生」, 「その他」の6属性に分類して, 表1の到達度に属性別違いがあるか確認を行う。

表2 受講者数登録状況

区分	平日コース	日曜コース	組み合わせ	全体
人数	101人	88人	2人	189人

表3 属性別受講者人数

属性	行政	学校教職員	民間企業・団体	地域・自治会など	学生	その他
人数	33人	20人	42人	39人	24人	25人

4. ルーブリックの評価と分析

理解度確認クイズ, 達成度自己評価, 今後連携できそうな仲間の人数の項目では, コース間に到達度の差異は見られなかった。そこでまず各評価観点を5点満点に点数化・基準化し, 評価観点別に分析を行った。結果を表4に示す。次に, 属性間の評価観点の集計を行ったものを表5に示す。その結果各評価観点の平均値は, 一部で「高い」レベルが見られたものの, ほとんどの評価項目で「普通」レベルとなり, 設定した評価尺度は概ね妥当と確認できる。また表5で示した属性間の差異が統計的に有意であるか確認する為に分散分析を行った結果, 一部の項目で有意な差があったが, 項目間の点数の差はレベルが変わるほどのものではなかったため, 属性別にルーブリックを作り分ける必要性がない事が確認された。

表4 評価観点別得点結果

評価観点	スキル					人材育成 ②講義内容を人に伝えることができる	ネットワーク		企画・立案・実践 ③地域, グループ, 仲間などでやってもらいたいと思う
	知識			主体性			⑦参加者同士で協力して作業を行うことができた	今後連携できそうな仲間の人数	
	理解度確認クイズ	①講義内容を理解できた	④作業内容を理解できた	⑤自分から発言できた	⑥自分から行動できた				
平均点	4.5	4.6	3.9	3.7	3.6	4.2	4.0	3.3	3.9
評価尺度	高い	高い	普通	普通	普通	高い	高い	普通	普通

表5 属性別得点結果

評価観点 属性	スキル					人材育成 ②講義内容を人に伝えることができる	ネットワーク		企画・立案・実践 ③地域, グループ, 仲間などでやってもらいたいと思う
	知識			主体性			⑦参加者同士で協力して作業を行うことができた	今後連携できそうな仲間の人数	
	理解度確認クイズ	①講義内容を理解できた	④作業内容を理解できた	⑤自分から発言できた	⑥自分から行動できた				
行政	4.54	4.51	3.93	3.71	3.66	4.23	3.94	3.46	3.57
学校教職員	4.62	4.66	4.03	3.91	3.93	4.19	4.30	3.22	4.18
民間企業・団体	4.69	4.49	3.74	3.65	3.57	3.94	3.99	2.97	3.80
地域・自治会など	4.49	4.56	3.59	3.43	3.40	4.30	3.71	3.53	3.38
学生	4.43	4.52	4.29	3.81	3.76	4.17	4.21	2.85	4.29
その他	4.50	4.56	3.64	3.56	3.51	4.19	3.86	3.57	3.92

5. 結論

基礎編の評価のために作成したルーブリックによる評価を行ったところ, 各評価観点の平均値はほとんどの評価項目で「普通」レベルとなり, 設定した評価尺度は概ね妥当であることが確認された。一部, 平均値でも「高い」レベルになる項目が見られるが, これは, 今回の受講者レベルが高かったのか, 基礎講座としての要求レベルをもう少し上げる必要があるのかという点について, 継続した検討が必要である。

参考文献

- 1) 小山真紀, 高木朗義, 能島暢呂, 村岡治道: 清流の国ぎふ防災・減災センターにおける人材育成プログラムの開発, 地域安全学会梗概集 No.41, 2017.11